

## 会議録

会 議 名	第3回 高尾エリア観光振興会議	
日 時	平成20年8月26日(火) 午後6時30分～ 午後8時30分	
場 所	東浅川保健福祉センター4階 第2、3集会室	
出席者氏名	委 員	岡本伸之(会長) 宮瀬睦夫(副会長) 古本泰之、水口和也、木下昇、渡邊一夫、田島章、中村侑子、岡部武次、金指征治、井上郁子
	事務局	原田親一観光課長、森田隆俊主査、池ノ谷洋一主事
欠席者氏名	小阪弘	
議 題	高尾エリアの観光まちづくりについて	
公開・非公開の別	公開	
非公開理由		
傍聴人の数	なし	
配付資料名	なし	

### < 会議の内容 >

<事務局>       本日、小阪委員が欠席されています。また、JR高尾駅長の小泉委員が8月1日に人事異動されました。現在後任者に就任の調整をしており、本日は欠席となります。

<会長>           会議録の確認について、事務局より説明をお願いします。

<事務局>       先日送付した第2回会議録について、発言の訂正等ありましたら、本日の会議終了時に口頭もしくは、メモで事務局まで提示ください。今後も同様の手順で進めたいと思います。

                  なお、会議録の公開につきましては、図書館での閲覧のみといたします。公開資料には、発言委員の名前は表記しません。また、公開に当たって審議会が指定する者の署名が必要となりますので、会長にお願いしたいと思っておりますので、ご承知ください。

<会長>           本日の議題「高尾エリアの観光まちづくりについて」に入りたいと思います。会議の今後の進め方として、各委員の皆様にそれぞれの立場から八王子の観光活性化のご提案をいただきたい。最終的にはその提案を整理して、その中からこの会議としてアクションプランに結び付けていく方向で進めていきたい。このような考えで問題ないだろうか。

- <事務局> 事務局としても会長の意見と同様に考えております。この会議には、高尾観光に関心を持っている市民委員、高尾の観光に取り組んでいる事業者、観光振興の専門家等が参加しています。委員が現在行っている高尾エリア内における観光振興への取組みと取組みを通じた意見をお話しいただきたい。発言は先進事例として会議の貴重な資料にするとともに、その事業を発展・拡大して新たな事業として高尾エリアに広げるといった応用ができるかもしれない。最終的にはその中から、高尾の観光にフィットするものを提示できればよいと考えている。
- <会長> 委員の意見や提案を事務局で整理し、たたき台を作ってもらえれば、会議で審議してゴールにしたい。今までの実績の延長線上に新たな取組みが考えられないか？観光協会での取組みなどはどうだろうか。
- <委員> 観光ミニバスツアーがある。毎回30名ほどを募集している。市の広報、協会のホームページ、ミニコミ紙等で周知している。昨年は13回実施、乗車率は平均91.3%である。今熊のミツバツツジ、八王子城跡、花街等のツアーは即売で、キャンセル待ちの状況である。
- <会長> どういった人が対象なのか。
- <委員> 市民が対象だが、必ずしも市民だけではない。毎回2、3名程度は市外からの参加者もある。
- <会長> 費用はどのくらいか。
- <委員> 4、500円から9、000円くらいである。
- <会長> 事業主体はどこになるのか。
- <委員> 企画等は協会が行うが、ツアーを募集できる資格がないため最終的には京王観光へお願いしている。
- <委員> ツアーについては、高尾エリアだけということでは実施していない。八王子城跡も滝山城跡や道の駅等とセットで組んでいる。
- <会長> ミニバスツアーは何年ぐらいの実績があるのか。
- <委員> 4、5年続けている。ツアー参加者は市の広報での応募が圧倒的に多い。
- <会長> 京王観光に商品として、ツアーを委託販売することはないのか。
- <委員> そこまではない。
- <副会長> 即売するような人気ツアーがあるなら、何回も行うことはできないのか。

- < 委員 > 常連もいるので、同じ企画を組んでも売れる補償がない。観光協会の体制もツアーを複数回行うには体制がとれない。協会には登録しているボランティアガイドが15名おり、ツアーには同行するが、毎週とか回数が増えると厳しい部分もある。今後ガイドを増やす構想もあるが、現時点ではツアーを増やすのは難しい。
- < 委員 > ミニバスツアーのバスの定員は何名か。
- < 委員 > 30名です。
- < 委員 > 30人にははずれてしまう人もいるわけですね。
- < 委員 > その場合はキャンセル待ちになる。季節にもよるが夏のツアーは比較的売行きが悪い。ミニバスツアーの参加者は比較的高齢者が多いせいもある。
- < 会長 > ミニバスツアーの使命はどういったことなのか。
- < 委員 > 市民に八王子を再認識してもらうことである。
- < 会長 > 観光振興ということは、住んでよし、訪れてよし、ということであるから、市民に認識してもらうことも大事だが、市外の方に八王子を知ってもらうことも大切である。ミニバスツアーの費用はどういったかたちでまかなっているのか。
- < 委員 > ツアーは必ず昼食付でやっているもので、その昼食代、バス代等である。利益はほとんどない。ボランティアガイドも全く無料ではなく、交通費程度は支給している。
- < 会長 > 民間企業として、乗り出せそうなことはないだろうか。
- < 委員 > 観光協会が行って採算が五分五分といったお話を伺ったが、これを民間がやるとすればかなり厳しいのではないか。ミニバスツアーは広告等も市の広告等を使っています。もしこれを旅行会社が取扱う場合は、パンフレット代、その他宣伝広告費、販売店舗に支払う販売手数料等の経費を見込まなくてはならない。観光協会と同様な金額行うとなれば残念ながらかなり厳しい事業と言わざるをえない。
- < 委員 > ツアーに携わっている職員の人件費も度外視した運営となっている。営利的な企業が行うには金額を上げる必要がある。そうすると現状のようなツアーは成り立たないと思われる。
- < 委員 > 八王子市が行っているツアーというところに「ブランド」もある。

- <副会長> 観光協会の経営が成り立つためにも、利益が生じるシステムを考えていかねばならない。どんなにいい企画でも商売として成り立たなければならない。協会は市からの補助金等があるから成り立っているわけである。
- <会長> 何か見落としているような資源はないだろうか。御陵なんかはどうだろうか。
- <委員> 御陵だけでツアーを組むのは難しい。
- <副会長> 今後高尾駅の改装により、駅舎をどうするかということがあるが、高尾駅北口の駅舎を旧御陵駅へ移設することにより、昭和の里といったようなものを作ることが1つの観光の目玉になるのではないかと。食事や地場産のものを購入できるような環境整備がされれば、高尾山に来た人が、訪れることは可能ではないかと思う。御陵そのものは宮内庁の管轄なので、手を出すことはできない。
- <委員> 観光客がどのようなことを望んでいるのかアンケート調査を行えないだろうか。過去にホンジュラスやアルゼンチンで観光振興の指導を行ったことがあるが、アンケートに基づいて戦略戦術を立てた経緯がある。よって、高尾でもそのようなことを検討できないだろうか。
- <会長> 通常はそういったことも考えられるが、この会議ではデータ等なしで、それぞれの委員が各分野での経験に基づいて、観光客のニーズを踏まえて意見を出してもらいたい。そういった中で最終的にはアクションプランを提示するが、そのための仮設が絞られた段階で、アンケート調査のようなことを行う必要があるかどうか検証すればよい。
- <副会長> 先日の会議でも話したが、宝探しを行いたい。高尾エリアの中にどういった宝があるのかを各委員の経験の中から拾い出してもらいたい。八王子は「まるごと観光」ということで、市内全域を観光資源にしたいということである。よって、観光としての磨き上げも必要である。懇談会で上げられているもの以外でも観光資源はまだあると思われる。
- <会長> 各委員の意見がある程度集まった段階で、事務局で整理してもらい、最終的には5つ程度に案を絞る必要がある。
- <委員> 高尾山とセットで観光できる場所があれば、遠方から宿泊して来てもらえる可能性があるのでは、宝さがしは必要であると思う。
- <委員> 国土交通省、農林水産省より「観光圏の整備による観光旅客の来訪及び滞在の促進に関する基本方針」が平成20年7月23日に告示されているが、その中で、「観光コンテンツの充実」という項目があるが、この部分で述べられていることが参考になると思われる。

- <会長> 薬王院は、観光コンテンツを取り揃えていると思うが、どうだろうか。
- <委員> 体験型としては、寺に宿泊して、座禅、写経、講話を聞いたりできるが、これはまさしく体験型の宿泊である。日帰りハイカーが多いが、健康志向や経済志向（安価）から、若い人も多く参加している。
- <会長> 何人ぐらい泊まれるのか。
- <委員> 300人ほどである。
- <会長> 八王子は食事も「うかい亭」といった有名所がある。1日目は精進料理としても、そういったところを組み合わせるのもよい。
- <委員> 観光客にとって、八王子を活性化するという事は、経済効果をもたらすことだが、そのためには八王子が持っている独自の要素を最大限活用することである。1つは、高尾山を主体とした「自然」である。2つ目は、東京都心から1時間で来られる位置にあること。日中都市で用事のある方が、夕方（夜）八王子へ宿泊のため戻って来るといった逆転の発想も考えられる。種々の健康づくりプログラム（ヘルスツーリズム）として、市内の宿泊施設も含めて、薬王院の体験型宿泊を活用すれば3～5日の宿泊が必要となる。また、社会人の予備軍が多くいる大学等を利用して市内でコンベンションを開催し、連泊が伴えば来訪者による消費額効果も見込めるうえ、様々な宣伝（知名度）効果も期待できるのではないだろうか。
- <委員> ゼミの学生と高尾エリアに関して調査したことがあるが、取り上げられる要素として、健康、植物を中心とした自然資源、食べ物、歴史等があるが、これは主に50～60代が対象の資源と思われる。このような人達は「学びたい」「誰かに伝えたい」という考え方がある。先ほどミニバスツアーの話があったが、常連の人達をガイドとして取り込んでいき、情報発信してもらう、つまりゲストからホストへということである。
- <会長> 八王子検定なんてどうだろうか。東京シティガイド検定に関わったことがあるが、合格者の人達で、NPO団体を立ち上げて活動している。定期的に集まって、コースを歩いてガイド研修をしたり、また東京都観光財団に協力をしたりしている。
- <委員> 京王電鉄での実績としては、以下のものがある。  
春、秋の「スタンプハイク」。スタンプを15箇所くらいの場所に設置している。2002年の冬からは「冬そばキャンペーン」を行っている。これについては、全店舗に参加してもらうことにこだわった。夏場には薬王院と連携して行っているが、子供向けの修行体験の合宿がある。これは、教師や教師を目指す学生にもボランティアとして参加してもらっている。また、裏高尾の木下沢では、高尾の森づくりの会と連携して森林体験教室を行っている。子供とその親を対象に山や森の大切さを教え

ることを目的としている。

- < 会長 > 裏高尾で泊まれるところはないだろうか。
- < 委員 > キャンプができるところはある。以前は子供を対象に行っていたイベントもあったが、現在は行っていない。
- < 会長 > 冬そばキャンペーンのように選べる楽しさがあることが重要である。選べる楽しさがあることによって、観光地の魅力が増す。裏高尾についてもそういった活用ができないだろうか。
- < 会長 > 市で高尾の里といった施設を作るということだが、高尾の里と組んで高尾山を楽しむためのプログラムなどを作れないだろうか。これにはボランティアガイドを活用することもできる。また、高尾山の植物検定といったことを行い、選択肢を広げてもよいのではないだろうか。
- < 委員 > 滞在型という言葉が言われているが、高尾のよいところは、都心から近いということであり、近いからこそ滞在してもらう必要性があるのかといったことで悩んでいる。
- 高尾山の告知ということでは、この春京王の事業としてテレビCMに初めて取り組んだ。パンフレットやポスターも作成し、PRを行うことは可能だが、ハード整備はできない。トイレの整備、道標の整備、高尾山口駅前や参道にかけても整備が必要だと考えている。こういったところは、行政との関係が必要である。
- 宣伝等においても、もう少し横の連携が取れないかと思っている。先程のミニバスツアーもそうだが、現状の方法だと市内向けになってしまふ。市外への周知も含め、市町村を超えた連携が望ましいと考える。
- < 会長 > 先程、観光圏整備法の話があったが、この中で一番印象に残るキーワードは、滞在型である。2泊3日の旅行商品を作ればサポートするのがこの法律である。また、もう1つのキーワードとしては協議会を作れということである。観光事業というのはビジネスである。八王子を1つの経営体としてとらえ、その経営体を動かすには観光協会だけでなく、観光に関連する団体が集まって協議会を作り、事業主体として活動していく必要がある。ステイクホルダー（受益者）はたくさんいる。
- < 会長 > 高尾登山電鉄は何かありませんか。
- < 委員 > 高尾登山電鉄の取組みとしては、いくつかある。冬至前後に高尾山頂でダイヤモンド富士を見ることができる。8年ぐらい前からPRしており、年々増えているが、昨年が一番多くの人出があった。但し、天気によって左右されるので、ツアー等組んで宿泊等とタイアップするのは難しいと思われる。また高尾には自然に興味がある方も多く、セッコク、シモバシラが見られる時期は、HPで情報提供している。

高尾のイベントとしては、春には裏高尾の高尾梅郷を散策できるし、高尾山薬王院祈祷殿では火渡りなどの行事もある。

< 会長 > 高尾登山電鉄には何か顧客組織みたいなものはあるのか。例えば、ムササビを見る会や、ダイヤモンド富士を見る会のようなものは。

< 委員 > そういった組織はない。年に4、5回薬王院の精進料理とからめて、山野草を楽しむ会を開催している。山野草の専門の先生を招いているが、ネットで公開すると定員30名ぐらいはすぐに集まってしまう。

< 会長 > ケーブルカーに乗ったお客さんが、そのあと高尾山を楽しむ所をどのように援助できるかということも重要ではないか。会員組織を作って、その会員に案内をしてもらうというようなことも検討したらよいのではないか。

< 副会長 > ファンクラブはどうなっているのか。

< 委員 > 現在は300人ぐらいである。600人を目標にしている。

< 会長 > ファンクラブとはどのような組織なのか。

< 委員 > 高尾陣場ファンクラブといい、高尾、陣場をこよなく愛する人達の集まりである。観光協会が事務局で募集しており、随時イベントを行い高尾、陣場の魅力を提供している。

< 委員 > 1日だけではもったいないので、3、4日のプログラムを組めないだろうか。例えば、薬王院の座禅等のプログラムでも、1日だけでは効果がないので、3、4日ぐらい行わないと効果がないと思われる。

< 委員 > 京王電鉄が主催する宿泊型、1泊2日の体験教室をはじめ、薬王院でも1泊2日の体験教室等行っており、夏場は宿泊の予定が一杯入っている。

< 委員 > 1泊2日でなく、もう少し長くできないだろうか。先ほどのダイヤモンド富士のようなものと絡めて、3、4日ぐらいの宿泊にできないだろうか。

< 会長 > 高尾への来客者を日帰り型から、宿泊型に代えていくのが、1つの課題である。体験型のコンテンツを加えて、高尾周辺に宿泊してもらう。その宿泊の便宜をどのように図るのか。例えば、姉妹都市の市民を招いて交流を図るのも1つの観光交流である。

- <副会長> いい提案である。八王子市は2つの姉妹都市と3つの海外友好交流都市がある。招待をしているのは市長等偉い人である。市民等民間レベルの交流が必要である。
- <事務局> 姉妹都市は、苫小牧市と日光市である。海外は、中国、台湾、韓国と友好交流都市を結んでいる。中でも台湾の高雄市とはお互いに民間交流を行っている。台湾の訪日ツアーでも、都内しか訪れていなかったのを八王子市まで足をのばすようなケースもでてきている。
- <会長> 御陵はどうでしょうか。
- <委員> 御陵内は難しいので、御陵駅跡地に記念館のようなものを作って、そこに皇族が利用した列車、写真、新聞記事等、昭和の品を展示する。こういったことは八王子でなければ行えないと考える。
- <副会長> 御陵は八王子市にしかないものであり、観光に生かす必要がある。これは経済的な効果もあると考えられる。また、道の駅の候補地として、御陵駅跡地が挙がったこともあったが、面積的に狭いため実現しなかった。今後高尾駅舎の移転活用も含めて検討していくべきである。
- <会長> 商工会議所でプロジェクトチームを作って市内にのぼりを立て気運を盛り上げていったらどうだろうか。
- <会長> いい観光地というのは、文化、音、芸術、花、ファッション等いろいろな要素がそろっている。そういったものを1つ1つ大事にする必要がある。
- <会長> 八王子の観光というと、まつりの話になってくるが、八王子のまつりはどうなっているのか。
- <副会長> 八王子まつりは近年よくなってきている。山車も町会が持っている立派なものが10数台ある。千貫みこしもあり、数千の担ぎ手がいる。
- <会長> 八王子まつりの広報が少し足りないのではないかと。
- <副会長> 市民のお祭りとして、すなわち市民祭として始まったため、流行らなかった経緯もある。
- <会長> 八王子は、21の大学があるわけで、各大学が持っているリソースを活用できないだろうか。懇談会の延長線上で食のブランドがあったが、八王子は何か名物があるのだろうか。うかい亭等は八王子の食文化としてすばらしいと思う。パッケージにすれば売れるのではないだろうか。

- <事務局> 先の八王子のミニバスツアーでは、芸者さんと食事を合わせたツアーは1番人気だったと聞いている。
- <会長> うかい亭のような食事処は都心でもそうないと思われる。ところで、大学はどうか。
- <委員> 公開講座では、各大学が協力している。また、うちの大学でも先の観光ミニバスツアーで協力している。
- <委員> ミニバスツアーでは、東京純心女子学園のパイプオルガンや東京薬科大学の薬草植物園を見たこともある。多摩美術大学や造形大学等も美術協力してもらっている。すべての大学ではないが、一部の大学に協力してもらっている。
- <委員> 様々な学部があるが、学術的な会議等を市内の大学で行うというような考えはあるのだろうか。
- <副会長> それは提案している。学会を開いてくれと大学には呼びかけている。実施されたのは、東京工科大学がある。1万人程が訪れたそうだ。そのためホテルも満杯になってしまう。受け入れ体制がしっかりしていないと困難である。
- <委員> 大学の中では泊まることはできないのか。
- <委員> 宿泊設備を持っているところとない所がある。各大学は駅から遠いところにあるため、そこまで来てもらうには、やはり八王子に泊まってもらう必要がある。500人程度の学会であれば大丈夫と思われるが、1万人規模の学会になると市内の施設で受け入れるのは困難であり、都心の施設等になってしまう。
- <副会長> 地元の観光会社に声をかけて、ホテルや旅館を押えてもらう。それでも、全然処理できない。
- <委員> ずいぶん前の話になるが、東京薬科大学での大きな学会をお手伝いさせていただいた時も、八王子周辺のホテルでは全く足りなくなり、都内を含め相当広範囲の宿泊施設を利用した。学会等を実施する場合に重要なのは、規模に応じたコンベンションや宿泊施設が用意できるかだと思う。
- <委員> 5、6百人程度であれば、こういったものができるというパッケージを提示してもらえれば、やりたい大学はある。
- <副会長> 都心でやってもらってもいいが、エクスカージョン小旅行の中に八王子の高尾山を入れてもらう。関東の商工会議所の会があるが、来年は東京の担当である。よって、その時に高尾を取り入れるようお願いしている。

大学側も八王子の大学でやらなくても、エクスカージョンだけは八王子に来てもらうようにPRすべきである。

<委員>           エクスカージョンのパッケージをもらえると助かる。そのまま学会で使うことができる。

<会長>           冒頭の話に戻るが、今後の進め方については会議の最終的な成果物としてはアクションプランをまとめるということであり、それに向けて事務局としてはどうしますか。

<事務局>         今回大分、議論が進んだが、次回会議を10月に行うので、それまでの間にもう一度各自が高尾についてのテーマを考えてもらい、次回の会議の時にその話をしていただくということをお願いしたい。

<会長>           次回会議に向けて、チェック項目として5W1Hで考えていただきたい。「誰がやるのか、誰がターゲットか、誰がもてなすのか、場所、いつといった要素、ターゲットがプランに働きかける力は何なのか。」このようなことを念頭に置きながら、他の地域と比較しての強み、弱み等を整理して発言してもらいたい。

<事務局>         次回会議は10月28日(火)を予定しております。5W1Hの項目をあげたチェックリスト的なものを参考に皆様に送らせていただく。